

鳳高等学校 75 期生 学年通信
梅雨明けの 高校生活 後悔なし

第 5 号
学年通信 編集部
2021/7/16

第二 考 査 講 評

国 語 科

現代文 B : 今回は記述問題で得点できた人と、そうでない人とで差がつかしました。現代文は事前に覚えてきたことを問う問題だけでなく、その場で自分で考えて解答しなければならない問題が多数出題されます。特に、記述問題においては問われていることに対する解答になっていない人が多く見られましたので、まずは何を答えなければならない問題かをしっかり見極め、解答の構成を考えていきましょう。そのためには本文を正しく理解できている必要がありますので、授業でしっかり取り組んでいきましょう。

古典 B : 皆さんの中に、古典が苦手な人がたくさんいることを改めて実感した第二考査でした。まずは本文を正しく解釈することが大切です。そのために文法力は必須となりますので、助動詞や呼応の副詞、係り結びの法則などさまざまなルールを徹底的に覚えていきましょう。漢文についても句形を正しく覚えておかなければ解釈(現代語訳)はできません。2年生の夏休み。まだ、間に合いますので諦めずに挽回しましょう。河合塾から出版されている「ステップアップノート 30 古典文法基礎ドリル」(十二支のイラストが描かれている茶色の表紙が目印です)は古典文法を基礎から学ぶ際におススメです。他にもそれぞれの弱点に合わせておススメの参考書は色々ありますので、いつでも相談してください。

評論文講読 : 授業で読んだ同じ文章、同じポイントのはずなのに、設問での問われ方が少し変わっただけで急にできなくなった感じがしました。一問一答のように解答を覚える勉強に終始するのではなく、文章での筆者の主張や論理展開の本質をとらえるようにしてください。今後、文章もますます難しくなりますが、読みごたえのある文章になんとか食らいつき、力をつけていきましょう。

古典標準 : 扱う教材が難しくなり、敬語がたくさん出題されたので考査の点が下がったと思われます。助動詞と敬語を補強し仕上げていくのが目標ですので、頑張ってください。

数学科

数学 II : 数学 II は 4 単位ですので出題は広範囲にわたりましたが、「式と証明」分野は単元の最初からですので、基本的な内容が多く、対応しやすかったのではないかと思います。平均点は 57.0 と第 1 考査とほぼ同じでした。

1 から 5 (1) までは基本的な知識・技能を問う問題でした。3 は 2 次方程式の解の公式を用いて説く問題でしたが、(2) は 1 年生で学習した 2 重根号の外し方を忘れていてできなかった人が多かったようです。数学は積み上げの教科ですので、考査範囲は今まで学習したものすべてになります。

今回の考査で気になったのは、文字・数字を丁寧に書いていないことです。校内の試験についてはある程度良心的に判断して正答とされているものでも入試のように差をつけるための試験であれば不正解とされそうなものが多数見受けられました。数学に限らず、来るべき入試に向けて、採点する側に配慮して、解答を丁寧に書くように心がけてください。

数学 B : 今回はいろいろな数列がメインだったので、 Σ の計算や階差数列、群数列など大変だったかと思います。ただ、入試での数列といえば今回の範囲が主になるので、入試で数学 B が関わってくる人は必ず復習しておきましょう。

第 2 考査の学年平均は 54.2 点でした。大問 3 の Σ の計算はしっかり練習してくれたんだなと思いました。大問 9 の群数列はパターンが決まっているので、もっと練習してほしい問題です。大問 10 は基本的

な階差数列の記述問題でした。問題集を解くときなど丁寧に答えを書く練習をしている人にとっては簡単と感じたでしょう。細かいところで減点された人は、丁寧に記述する練習をしてください。1 点の差は大きな差です。

また、大問 2 のような漸化式の問題は第 3 考査に向けて引き続いて行う内容です。そこでは階差数列なども絡んできますので、今回の内容も忘れないようにしてください。

数学 II 発展 : 第 2 考査の学年平均は 50.7 でした。

基本・標準レベルの多い問題ですので、あと 10 点は欲しいところです。基本を大切にしてください。

夏休み中に第 1、第 2 考査でテスト範囲に入れなかった、P44、P45 の 364~374 にぜひ挑戦してみてください。難問が多いです。そして、P16~P23 も気になる問題をもう 1 度解きましょう。そうすると数学 III は頭の中に定着します。

数学 I A 演習 : 平均点 51.0。今回は 2 次関数・三角比という数学 I のメイン分野が範囲で、過去問も出題しました。入試問題の形式に慣れることと数学 II で 2 学期に扱う高次方程式、三角関数のための復習にもなるのでできなかったところを中心にしっかりとやり直しをしましょう。

英語科

英語 II : 第 2 考査の平均点は 52.4 点 でした。成績の二極化が見られ、少し心配しています。

形式・配点は第一考査に準じたので、前回の考査の講評を読み、対策を取った人は、しっかり得点できていました。これからも『問題の意図をきちんと読みとること…何を聞かれていて、何を(どう)答えないといけないのかをきちんと把握すること』を常に意識しましょう。

テスト勉強をしたのに、点数が伸び悩んだ人は、学習方法を振り返り、修正していきましょう。

リスニングの得点率が低い人は、日ごろから英語を聴く機会を見出しましょう。Input の量とリスニング力は比例します。聞き慣れてない表現は聞きとれません。(みなさん、どんなふうに歌を覚えますか? きくと、自然と口ずさめるようになるまでに何度も聴いていますよね?)

授業で取り扱ったところで点が取れない人は、ざっと復習しただけになっていませんか。

本文を読んで、英文のまま内容を、話の流れを理解できていますか。用いられている語法等に意識を向けていますか。単語を綴るときはスペルミスをしないう気を付けていますか。

出題傾向は同じですし、問題の難易度も上がってはいいませんが、気づいていると思いますが、教科書の Lesson が進むうちに、1 Part の分量も増え、単語の難易度が上がっています。

ざっと流すだけの復習では、テスト時、その分量に圧倒され、焦りながら問題を解く状況に陥ってしまいます。この夏の間自分の学習方法を振り返り、対策を立て、次に備えましょう。焦らず、でも着実にがんばっていきましょう。

英語表現 II : 学年全体の平均点は 61.9 点 でした。前回とは異なる出題形式の問題があったなか、よく取り組んでいたと思います。しかし第 5 問で設問をしっかり読まなかったために点数を落とした人は、設問をしっかり読む習慣をつけるようにしましょう。

第 1 問は Bright Stage からの出題でした。品詞、動詞の語法、名詞の可算/不可算など基本的な知識が半分問われていました。(5)(8)(12)(14) は特に基礎的な知識が問われていますので、間違えた人はもう一度何を理解していないのか振り返りましょう。

平均点以下だった人、すべての英文の主語と動詞を正確に見抜けますか。「almost」「most」の品詞をすぐに答えられますか。こうした基礎から積みなおす時間として夏休みを活用してください。

平均点以上あった人は、第 4 問までの得点率が大変良かったです。落としてはいけないところで確実に得点できている証拠です。そして英作文での原点を 1 点でも減らしていけば更なる高得点につながっていくはずですよ。

なぜ間違った(減点された)のか、丁寧に見直しましょう。現状に焦る気持ちがあるかもしれませんが、夏休みも変わらず焦らず基本基礎の定着を図りましょう。

長文読解：第2 考査の全体の平均点は6 7 点ほどでした。定期考査に向けて各自が取り組んでくれた結果だと思えます。しかし、大幅に点数を下げた人や設問をよく読まずに解答して、間違ってしまった人も少なからずいました。細心の注意を払って答案を作成してほしいものです。「解答・解説」をよく読んで、どのように解答したら点数アップにつながるのか各自で研究してみてください。今回も初見の英文の問題(問題4)の出来はよくありませんでした。多くの英文に共通する文構造をつかみ、複雑な構造の英文でも正確に読む力を身につける努力をしてほしいものです。みなさんの一層の頑張りを期待しています。

理科

地学基礎講評(中嶋健二郎)：

第②考査は範囲が広く「どう勉強したらいいかわからない」「理解しているかどうかわからない」という声もあったように思えます。しかし、それはまさに受験と同じではないですか？高校 3 年生の 12 月にも同じことを言っていると思いませんか？克服するなら「今でしょ。」

さて、この講評を見てくれたあなたには、少し考え方を伝授します。まずはあなたの点数ですがこれが理解度で、勉強の効率が「理解度(%)」になって出ていると思ってください。からくりを暴露するならば、理解度を測るには生徒の言葉がぶつ切りになっていないかをチェックします。例えば「人類は 700 万年前にアフリカで二足歩行をしたサヘラントロプスチャデンシスから始まった」まで覚えているかを見ればよいわけです。さらに応用としては「なぜ二足歩行をはじめたか？=それは、アフリカの西に山脈ができて地域一帯が乾燥しはじめて熱帯雨林が失われてきたからだ(地学基礎範囲外です)」などのように問題を組み立てれば、理解度把握は一発です。これを逆手にとって、勉強というものは、**まず言葉を覚えまくる→それを説明できる→原理を追求する**の順番だと理解してください。言葉は人類が 10 万年かけて編み出した宝物です。文系のあなたは言葉を大事にせねばなりません。では、最後に場合分けをしてアドバイスをします。

ケース①あまり勉強できなかった→Ans.ワークをいつも通りやってみましょう。※ただし、テスト前ではなく、一か月ごとに復習をすること。(何回言っても多くの人がやりませんが、そんな非効率なことをなぜやるのでしょうか？)

ケース②かなり勉強したのに点数(理解度)があがらなかった→Ans.言葉を覚えるだけになっていませんか。知識には「流れ」があり、その先に枝葉のように事象があることを確認してください。また、言葉を受け取ったときに、イメージを描いていますか。「エディアカラ生物群」と聞いて頭の中に 6 億年前、先カンブリア時代の何もない岩山と砂浜、海中にただようクラゲやもっさりとした無脊椎動物の映像が広がりましたか？

以上のようなことは、受験勉強という「マラソン型」の勉強には必ずついて回る問題です。受験勉強の意義は自己発見ですから、変化を恐れることなく勉強と向き合ってください。以上

生物基礎 2：今回は選択肢の数が少なかったこともありましたが、君たちの努力もあり、第1 考査よりも平均点は 1 0 点近く上がりました。ただ、思考を要する問題で理解が出来ないままテストを受けたと思われる生徒も多数見受けられました。次回からは理解出来ない箇所を質問に行けるように、時間的余裕をもって問題集に取り組むようにしてください。

化学：①問題を読んでいない人が多いと感じました。「元素記号」で答えないといけない問題を「元素名」で答えていたり、「正しい語句」で答えないといけない問題を「×」と答えていたり…。今のうちから問題をよく読むように気を付けましょう。

②電池は負極・正極、電気分解は陰極・陽極で、それぞれ酸化反応が起きるのか、還元反応が起きるのかを再度確認しておきましょう。

電池は(正誤問題で実用電池も数問出しましたが)、ボルタ電池、ダニエル電池、鉛蓄電池、燃料電池をメインで出題しました。燃料電池の負極・正極の反応式を必ず確認しておいてください。一番正答率が低かったです。それに対し、鉛蓄電池の問題は計算も含めて比較的よくできていたと思えます。

電気分解は電極を必ず確認し、陰極、陽極でどのような反応が起きるのかを考えるようにしましょう。パターンがわかってくれば、結構簡単ですよ。頑張ろう！！

地歴公民科

地理 A：今回は前回に比べて平均が 2 0 点ほど下がりました。前回より難しかったのかもしれませんが、何といっても勉強が足りません。きちんと勉強していません。今回の範囲は今後につながる所が多いので、このままでは困ります。いま一度、答案を見直して、できなかった所、間違えた所、まぐれ当たりした所を、授業プリントを参考にしやり直しなさい。さもないと、今後も点が取れません。地理は復習が大事で、積み重ねが肝心です。夏休みの間に、地体構造の区分とケッパンの気候区分を、何度も何度も勉強しなさい。

日本史 A：考査お疲れさまでした。今回の平均点は第 1 考査より 20 点ほど下がりました。難易度があがったと思われるかもしれませんが、今回は入試に対応できるレベルで出させてもらいました。平均点より高かったからできているという声が聞こえたりもしますが、それは鳳高校での話です。みなさんが入試で戦わないといけないのは、全国を受験生です。なので、鳳高校の平均で考えていると、来年痛い目を見るかもしれません。授業でも何度も言っていますが、授業中は考えることを意識しましょう。ただただ、単語を覚えるだけでは今回のテストのようなときには、悲惨なことになります。日本史は面白いんです。人物がいていろいろな出来事が起こり、また、人物が動く。そこで、「なぜ、こんなことになっているのか」「なぜ、こう考えたのか」、疑問を持ってください。持ったら解決してください。あと、友達同士で教えあいつこして下さい。人に知識を伝えるときには整理できていないと伝わりません。なので、知識を人に伝えることで自分の知識が整理されると思って、得意な教科は教えてあげて、苦手なものは教えてもらって、お互いに高めあってください！次回に期待します。

保健体育

*考査の学年平均は 69.4 点(最高点 98 点)でした。今回、高校生の健康課題について自分なりの意見を記述する設問を作りました。今後も記述式の問題で思考力、表現力を評価していきたいと思えます。*みなさんの情報源はスマホが主だと思いますが、スマホは自分の興味関心のある記事ばかりが目に入ります。情報のエリアが狭くなりがちです。保健の新聞課題を通してエリアを広げましょう。検索をかければ、それに関連した記事が飛び込んでくれるのですから助かりますね。夏休みも保健に関する新聞、スマホの情報をチェックしておいてください。

『のど赤き 玄鳥(つばくらめ)ふたつ 屋梁(はり)にゐて
垂乳根の母は 死にたまふなり』 斎藤茂吉「死にたまふ母」からの一首です。

皆さんは身近にツバメの巣を見かけることがありますか。日本野鳥の会によると、残念ながら日本のツバメは年々減少しているそうです。ツバメを見たことがない人には、この短歌に詠まれた世界もピンとこないのかもしれませんが。

最近、SDG s というロゴを目にするのが増えました。ネットにあるような極端な意見や行動に違和感を持ったり、経済的な戦略だと斜めに構えたりするだけでなく、身近な自然に目を向けたり、できることに取り組んでみたりする夏休みにしてみたらどうでしょう。

